

ふるたん年表 NO.2

- (28) 2014年3月14～20日 ビクトリア山第2次調査 ～
- (50) 2016年5月19日 第5回「ふるたんインタビュー」

2014年3月14～20日 ビクトリア山第2次調査

第2次ビクトリア山調査登山隊は、「ふろんていあタウン工房」(NPO法人設立準備室)とNPO法人「まちナビ倶楽部」との合同チーム編成、JICA草の根調査(2006.9～2009.6)スタッフとの意見交換会も行いました

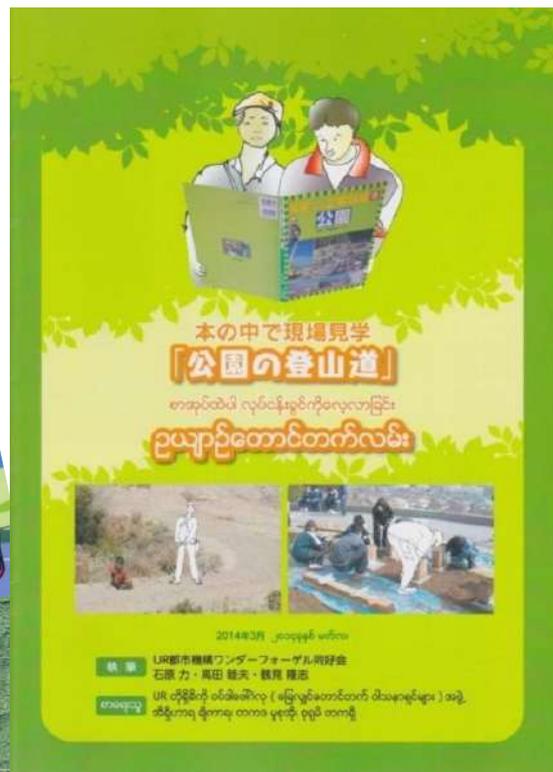


ガイドは第1次と同じウィメンティさん

安田さん(アース・ウォッチ・ジャパン)

田上さん(牧野植物園)
シェイン・ガイ・ンガイ前公園事務所長

第2次調査隊は、山の自然を守り育てることの大切さを子供たちが学ぶようにと、「飯能自然の回廊」での活動を紹介しながらURワンゲル同好会が執筆した「公園の登山道」を、「びるまの豎琴」のモーココさん佐野さんの協力で日本語ミャンマー語併記の小冊子にし、ビクトリア山の登山マップづくりの参考となる日本の登山マップなどと一緒にナマタン国立公園事務所に届けました。



ティン・ミヤ・ソエ公園事務所長と藤川さん(牧野植物園)



日本とミャンマーの少年のイラストを表紙に載せた「本の中で現場見学・公園の登山道」「飯能部会」は、資料がお先にミャンマーデビュー！



**本の中で現場見学
「公園の登山道」**

စာအုပ်ထဲပါ လုပ်ငန်းခွင်ကိုတွေ့လာခြင်း
ဥယျာဉ်တောင်တက်လမ်း



2014年3月 ၂၀၁၅ခုနှစ် မတ်လ

快 報 UR都市機構ワンダーフォーゲル同好会
石原 力・高田 毅夫・観見 雅志

စာရေးသူ UR တိုင်းရင်းစိုက် ဝင်းဖွံ့ဖြိုးရေး (မြေပြုလုပ်ရေးတောင်တက် ဝင်းဖွံ့ဖြိုးရေး) အဖွဲ့
အိရှိဟာရ ဇွဲကာရ တကာဒ မူပိုင်ခွင့် ဖုရမိ တာကူရီ

「公園の工事現場を訪ねてみよう」

2013年3月、飯能市の出版から「見学しよう工事現場⑥公園」という本が出版されました。この本は、一般の人たちがめつたに見ることのできない工事現場をシリーズで取材して紹介する少年・少女向けの本で、タワー、トンネル、ダム、橋、線路、港、道路と駅舎、朝日帯の「公園編」では、埼玉県飯能市の龍崖山公園の工事現場が取り上げられ、本の中で「現場見学」をしています。

၂၀၁၃ ခုနှစ် မတ်လ တွင် ဟိုလူလူကွေ့ဟိုကွေ့ (မြေပြုလုပ်ရေးတောင်တက်လမ်း) လုပ်ငန်းခွင်ကို တွေ့လာခြင်းသည် (စာအုပ်ကို ထုတ်ဝေခဲ့ပါသည်။) စာအုပ်မှာ သားဖန်လှရေးအဖွဲ့မှ မြေပြုလုပ်ရေးအဖွဲ့မှ စာအုပ်ကို တွေ့လာခဲ့ပါသည်။ မြေပြုလုပ်ရေးအဖွဲ့မှ လုပ်ငန်းခွင်ကို တွေ့လာခဲ့ပါသည်။ မြေပြုလုပ်ရေးအဖွဲ့မှ စာအုပ်ကို တွေ့လာခဲ့ပါသည်။

公園といえば、色々な木が植えてあり、遊具や広場があったりするところを思い浮かべますが、公園の工事現場は、作った後、土の下に隠れてしまっていて、普段は見ることのできないところの工事も多いです。●工事現場ではどんなことをしている？●工事現場で見つけた車両や機械、それぞれの現場の人にインタビューをしながら、工事現場の1日の「現場見学」が温まります。



「龍崖山公園ってどんな公園？」というインタビューに、公園設計を担当した人が、公園の特徴について話しています。

「龍崖山公園は、埼玉県飯能市の中心から2kmの丘陵地のまちづくりに整備された公園で、公園の外側にも緑地が整備され、その隣接が、昔から市民に親しまれている「龍崖山」まで繋がっていることから「龍崖山公園」と名づけられました。

この本の中で現場見学は、公園の工事現場を訪ねてみようという本が出版されました。この本は、一般の人たちがめつたに見ることのできない工事現場をシリーズで取材して紹介する少年・少女向けの本で、タワー、トンネル、ダム、橋、線路、港、道路と駅舎、朝日帯の「公園編」では、埼玉県飯能市の龍崖山公園の工事現場が取り上げられ、本の中で「現場見学」をしています。

「飯能部会」は、自然の回廊づくりにチャレンジした活動を引き継ぎ育てながら、「山と共に生きる地域づくり」を内外に広く発信していきます。

2014年6月16日 NPO法人「ふろんていあタウン工房」設立

定款の目的には

国際社会への復帰を目指すミャンマー連邦共和国の辺境の地での山の魅力を高める環境保全活動と、山麓の村の生活を向上させる地域おこし活動の推進のため、日本のニュータウン開発技術を活かし、辺境の地の自然環境と生活環境の改善に努め、人と自然の調和がとれた地域格差のない環境社会づくりに寄与する。

と書かれています

「ふろたん通信」No.3からNPO法人が頭についた通信になりました

NPO 法人 ふろんていあタウン工房

ふろたん通信



2014年 6月 20日 広報センター

No. 3

平成 26年 6月 6日 「特定非営利活動法人設立認証書」が届きました！

『ふろんていあタウン工房』本格スタート宣言

□ やっと本格スタートです

「UR ワンダーフォーゲル同好会」が、設立40周年記念事業として昨年3月に行った第1次ミャンマー遠征ビクトリア山登山でスタートした「MT.VICTORIA PROJECT」、このプロジェクトを「ワンゲル同好会」から引き継いだ「ふろんていあタウン工房」は、第2次現地調査隊を今年3月に派遣、NPO 法人設立に手間取り「準備室」のまま発行した「ふろたん通信」の創刊号（2014.2.26）で壮行会の案内、帰国報告は第2号（4.4）に掲載しました。

その後再縦覧を経て、6月6日に東京都から設立認証書が届き、法人登記書類を整えて16日（大安吉日）に法務局に提出、**NPO 法人 ふろんていあタウン工房**がやっと本格スタートとなりました。



□ 会員拡大活動 への取り組み

2月の「ふろたん通信」創刊号では、NPO 法人発足に向けた体制づくりとして広報活動を積極的に推進し、まず会員拡大活動に取り組むことを呼びかけました。

「MT.VICTORIA PROJECT」のリーフレットを作成し、「賛助会員（個人・団体）」の勧誘を進めてきましたが、設立を機に皆で「仲間づくり」に一層力を注ぎましょう。

□ 第2次調査隊メンバーの報告会

赤川調査隊長からの報告は、帰国当日ハードインタビューとして「通信」第2号でお伝えしましたが、5月22日には、調査隊に参加いただいた森角武久さんと三宮満雄さんからの報

2014年6月26日 第1回総会開催

「ふろたん通信」No.4(8月12日)では、
第3次調査隊のミッションは「ビクトリア山登山ガイドマップ」製作に向けた現地
調査だと呼びかけています。

「ふろたん通信」No.5(10月7日)は、
9月27日の「**御嶽山噴火**」の知らせを聞いた
のが「ツーリズムEXPOジャパン」のミャンマー
出展コーナーだったことを伝え、ストーリーマ
ップ「御嶽山・ビクトリア山」の表紙を載せて
います。

前年の同じ9月の第4土曜日、URワンゲル
同好会は、月例山行で御嶽山に登っていま
した。



前年(2013年9月)の「御嶽山行」を報告する渡り鳥通信」



登っていたのはビクトリア山第1次隊と2次隊のメンバー、「**二つの山の堅い契り**」の予感！

都市機構ワングル同好会

渡り鳥通信



UR-WV No. 920 号:平成 25 年 10 月 18 日

□ 9 月 月例山行の報告

天候に恵まれ、最高の展望を満喫 『御嶽山 (3,063m)』

日 程：平成 25 年 9 月 28 日 (土) ~ 29 (日)

参加者：江頭、室井、赤川、鶴見 計 4 人

1. 急登の連続

JR 高尾駅に集合して、赤川車で登山口を目指す。途中、コンビニで弁当を購入し、登山口である田の原駐車場で早めの昼食。

11:00 スタート。晴天で、既に頂上と山小屋が見える。登山口近くは緩やかだが、後は頂上までの一直線の急登の連続。足元には大きな石があり、歩きにくい道である。また、宗教の山だけあって、途中、大江権現、金剛童子などのポイントには、仏像などが祀られている。

14:20 大滝頂上奥社(2,936m)に到着。想像以上に立派な社殿。近くの斜面からは噴煙が上がり、硫黄の匂いも漂っている。さっそく大滝頂上山荘に宿泊を申し込む。本日の宿泊客は 10 名程度。我々 4 人で 10 畳の個室に案内され、余



田の原(登山口)



金剛童子(8合目)



大滝口頂上奥社

2014年12月10日 「ふろタンインタビュー」スタート

カフェと雑貨「ぼれやあれ」

不思議な店の名前のこと
ミャンマーの珈琲農園を探して
ミンガラバー・ユネスコクラブ



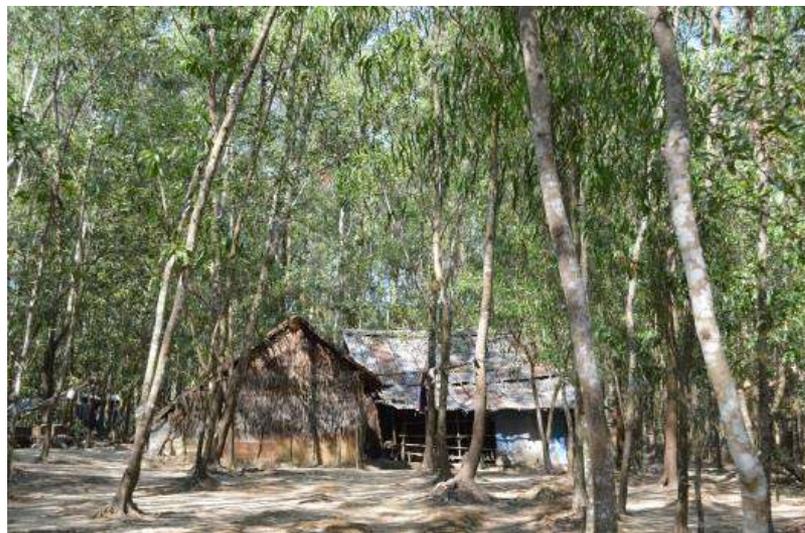
インタビューから3カ月後の2015年3月に
日本ユネスコ協会連盟に加盟承認され、
5月31日に設立総会を開き「ミンガラバー
・ユネスコクラブ」がスタートしました。

「ユネスコカフェ」を定期的に行って交
流と親睦を図りながら、機関紙「ミンガラバ
ーだより」を発刊して情報発信し多彩な活
動に取り組んでいます。

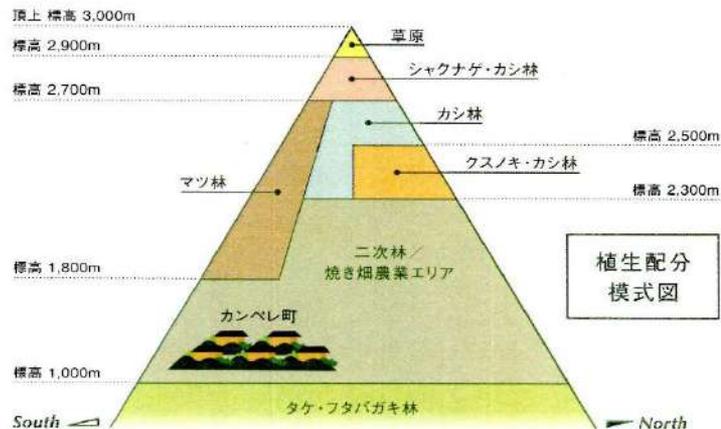
安彦隆さん 小野寺有菜さん

コミュニティフォレスト

ヤンゴン郊外モービー郡の「コミュニティフォレスト生活の森」の植樹プロジェクトに参加したメンバーが、「第1回ユネスコカフェ」で報告する様子を、「ミンガラバーだより」創刊号に載せています。



中央林業開発訓練センター演習林



「森林部会」は、ミンガラバー・ユネスコクラブの「コミュニティフォレスト活動」に協力し、「ビクトリア山麓での自然農園」実現を目指します。

2015年4月20日 平成27年度通常総会開催

総会では

(1) 目的を共有できる団体との協力・連携ネットワークづくり

(2) 持続的な遠征体制の強化

(3) 村おこしを目指した収益事業の取り組みに着手

(4) 「**森林部会**」を新設し「**飯能部会**」
「**御嶽部会**」との3部会体制での活動
推進 が話し合われ、

その報告を載せた「ふろタン通信」
NO.8では、5月にスタートする「ミンガラバー・ユネスコクラブ」から、「コミュニティフォレスト」活動を紹介する案内が届いたことも伝えています。

NPO 法人 ふろんていあタウン工房

ふろタン通信



2015年 4月 30日 広報センター

No. 8

重点目標「協力・連携ネットワークづくり」を掲げて

ふろタン工房の新年度がスタートしました！

□ふろんていあタウン工房 総会報告

日本列島を春の嵐が駆け抜けた4月20日、平成27年度通常総会が開催されました。

「ふろタン通信」NO.6・NO.7で呼びかけていた「目的を共有できるNPO等団体との協力・連携のネットワークづくり」を新年度の重点目標とすることを確認し、Ⅰ、積極的な情報発信による会員の拡大に引き続きメンバー全員で取り組むことと、Ⅱ、新年度の具体的な活動と実行体制について話し合いました。

実行体制については、新設した「森林部会」を加えた「飯能部会」「御嶽部会」の3部会体制で、☆辺境の地での持続的な遠征・活動体制の確立と☆国内活動での協力・連携ネットワークづくりを進めることとし、海外（ミャンマー）及び国内で、それぞれ森づくりや自然保全活動に取り組んでいる団体の名を具体的にあげながら話し合いました。

また、☆村おこしを目指した収益事業の取り組みに今年度から着手することについても話し合い、登山ガイドドマップなど観光みやげ品の試作販売等、今後の収益事業の拡大に向けて積極的に調査・企画し取り組むことにしています。

いろいろと話し合いましたが、何といっても新年度の最重点活動は11月のピクトリア山第3次現地調査隊の派遣、NPO法人設立後最初の調査隊の現地活動が有意義なものとなるよう、その日に向かって全員でバックアップ活動に取り組みしましょう。

□NPO法人設立1周年⇒活動報告会+懇親会を開催します

「ふろタン工房」は、6月16日に設立1周年を迎えます。準備期間を含めて約2年間の活動を、賛助会員（個人・団体）の皆様、色々なカタチでご支援・ご協力頂いたサポーターの方々へ報告し懇談する会を、記念行事として開催することにいたしました。ただいま準備中です。日時・場所が決まり次第、皆さまにご案内します。多くの方々との楽しい会にしたいと思います。ぜひご参加ください。

2015年4月27日 第2回 「ふろたんインタビュー」

「御嶽山」と「百草丸」

木曾ユネスコ協会と御嶽山登山道整備活動
伝承薬「百草丸」と木曾路の未来



井原正登さん



御嶽山の登山道整備と「木曾丸ごと夢作り活動」

2003年に設立された木曾ユネスコ協会が、2007年から毎年行っている御嶽山の登山道整備活動をはじめ、御嶽山・木曾路の魅力を高めながら地域の一体化・活性化を目指す「木曾丸ごと夢作り活動」は、一里塚跡の復元など色々な取り組みを進め、木曾の地域遺産を未来の子供たちに残して行こうとしています。



「御嶽部会」は、木曾ユネスコ協会の「木曾丸ごと夢作り活動」を学びながら「ピクトリア山とその山麓の村おこし」に活かして行くように取り組みます。

2015年7月8日 ふろタン工房創立1周年記念懇親パーティーが URワンゲル同好会と協賛で第3次調査隊派遣壮行会を兼ねて行われました

NPO 法人 ふろんていあタウン工房

ふろタン通信

2015年 8月 17日 広報センター



No. 10

ふろんていあタウン工房創立1周年

二つの記念行事の報告です！

□7月2日～3日「御嶽山慰霊活動」

URワンゲル同好会との共催で計画、木曾ユネスコ協会の御嶽山麓登山道整備活動に参加しました。

翌日に企画していた木曾駒ヶ岳登山は、悪天のため宿場町巡りだけになってしまいました。ワンゲルの「渡り鳥通信」が7月6日付のN0959号で活動報告をしていますので、登山道整備の部分を選択して転載します。報告者は、URワンゲル同好会マネージャーの「鶴見御嶽部会長」です。

『悪戦苦闘の笹刈り作業』スタートは、御嶽山の東側からの登山口である黒沢口の6合目にある「中の湯駐車場」。ここから、登山道をふさぐ笹を刈りながら下山して、5合目の「三笠山登山口」を目指しました。作業は、草刈り機を持った1名が先頭をザックリと刈り進み、残りの3名が、カマ、ナタを使って笹を刈り、登山者が歩ける程度の空間を作って降りていくというものでした。このコースは、一般の登山者はあまり歩かないことから、びっしりと笹に覆われていて、登山道がわからなくなっている箇所も多々ありました。筆者は、ナタを使いましたが、最初は笹を刈るコツがつかめず、悪戦苦闘。後半からやっとコツをつかんで、気持ちいいくらいに笹を刈りながら進むことができました。ただし、作業終了時には汗だくで、翌日は、普段使わない筋肉を使ったせいで疲労困憊。

夜は、木曾ユネスコ協会会長で日野製菓の社長さんご紹介で、木曾福島の古い街並みの中にあるお食事処で打ち上げをしました。おいしい料理でした。

登山道での笹刈り作業

木曾ユネスコ協会会長さんと(中央)

黒沢口からの御嶽山



□7月8日 1周年記念活動報告会+懇親会

こちらはワンゲル同好会の協賛で、新宿アイランドタワー17FのUR食堂で開催した懇親パーティー、40周年を超えたワンゲルの歩みから誕生した「ふろタン工房」の話などを交え楽しい時間を過ごしました。

『出席総数25名』普段はあまり顔を合わさない賛助会員の皆さんも参加し、会員19名+入会候補者1名の他、色々とお付き合いしている「まちなび倶楽部」からは森角さん三宮さんと丹羽さん、「ミンガラバー・ユネスコクラブ」からは小泉さんと大野さんに出席いただきました。ワンゲル同好会の海外遠征(20周年のキリマンジャロ・35周年の玉山・40周年のビクトリア山)に唯一人皆勤賞の江頭さんの「乾杯！」でスタート、ビクトリア山登山のビデオなどを流しながら、今まで準備をしてきた「飯能部会」「御嶽部会」「森林部会」の三部会体制での活動推進について、今年度は体制の充実を図りながら試運転し来年度から本格実施することを少し話し合い、あとはひたすら楽しく雑談。最後に今年11月の第3次調査登山に参加する瀬川さん・森下さんの決意表明を聞き、宮本ワンゲル同好会会長の「締め」でお開きとなりました。

『三部会体制での活動推進のお願い』三部会のチーム体制づくりに向けて「Ⅰ.朝倉飯能部会長」「Ⅱ.鶴見御嶽部会長」「Ⅲ.森下森林部会長」から皆さんに、各部会への参加のお願い・勧誘があります。現会員・賛助会員の皆さまにはぜひいすれかに所属いただきますようお願いいたします。三部会の違いは…？ 活動場所でおおまかに分類すると、Ⅰは郊外の山が身近なまちの集落、Ⅱは地方の山村の集落、Ⅲはビクトリア山麓の集落、といったところでしょうか。共通のキーワードは「辺境のタウンづくり」(強制ではありませんが是非ご参加ください。掛け持ち参加・大歓迎！)

□「第3回ふろタンインタビュー」を8月中にホームページにサイトアップの予定です。タイトルはお盆明けらしく(?)「天空の山! 笹刈の造形」中身は見てのお楽しみです!

8月14日現在の会員メンバー

※新入会員

正会員: 室井隆良 瀬川基之 安原昭子 浜崎良治 森田忠志 赤川勉 朝倉正浩 高田睦夫 安村孝志 宮本保宏 鶴見隆志 山本稔 森下毅一 (13名)

賛助会員(個人): 安田重雄 川添修 岩本善恵 牛久保亮一 小平和司 高橋修司 青柳志郎 迎尚子 岡島史祥 安達哲郎 前澤一雄 鈴木俊明 大墨宗重 長野啓 三田村喜己男 小島正勝 前園耕夫 林和馬 佐藤智哉 桑島義也 高橋美穂 田中俊美 渡邊牧子 六郷昌紀 平井和夫 竹川清和 江頭謙二 伊藤宏一 内崎千晴 水口雅恵 (30名)

賛助会員(団体): ㈱ピース・イン・ツアー (八井麻由美) ㈱アルテップ (荒川俊介)

(有)ブラディ・アソシエイツ (深島一郎) 昭和㈱ (高木長門) ㈱都市開発リサーチ (菅野雅樹) ㈱ヨシモトボール (柳澤江) (6社)

2015年8月13日 第3回 「ふろタンインタビュー」

天空の山と「祈りの造形」

彫刻のある街かど実験と宇津木台の竣工記念碑
「祈りの造形」西村公朝の時空を歩く
高尾山の天狗面像とパゴダのあるピクトリア山



国鉄が「ディスカバージャパン」で日本再発見ブームを展開していた1978年、中央線の高尾駅のホームに薬王院天狗面の石像が出現、成田山・川崎大師と並ぶ真言宗の関東三大本山の一つである高尾山薬王院を活かして、地域の活性化を目指した大成浩さんの作品です。

主催する「石空間展」が25周年を迎えた2015年は、西村公朝生誕100年の年、お父上の意志を継いで「祈りの造形 評伝・西村公朝の時空を歩く」を出版された大成栄子さんと一緒に、仏塔のあるピクトリア山との懸け橋になるお話を色々と伺いました。



大成浩さん・栄子さんご夫妻

「風」シリーズ



「風の地平線-蜃気楼」 魚津市



「風の塔」 八王子市



「陽風」 長野市



日本橋高島屋「石空間展」25周年記念会場にて

2015年10月26日「ふろたん通信」

NO.11

ビクトリア山第3次調査隊派遣が一月後に迫った10月の「山木会」は、瀬川・森田・森下3氏メンバーに第1次・第2次メンバーも加わっての最終打ち合わせの場になりました。

11月8日のミャンマー総選挙の1週間後、アウンサンスーチーさんの勝利が伝えられる歴史の転換期にビクトリア山登山ガイドマップ完成のための現地精査を目指して出発した第3次調査隊(11月16～23日)は、最後のとりまとめ調査隊としての役目を果たして元気に帰国しました。

1月20日新春報告会を開催

NPO法人 ふろんていあタウン工房

ふろたん通信



2015年 10月 26日 広報センター

No. 11

MT.VICTORIA PROJECT

「ビクトリア山第3次調査隊」 愈々11月16日に出発！

□10月の「山木会」で結団式(?) 準備万端です

一年前の「ふろたん通信」NO.5からお伝えしてきました第3次調査隊の派遣、この度メテタク精鋭チーム(瀬川・森田・森下)の結成が最終確定し、10月の「山木会」では第1次隊(江頭・室井)と第2次隊(赤川)の参加メンバーも顔を合わせての作戦会議が行われました。「通信」NO.5に書かれているように、第3次調査隊のミッションは「ビクトリア山の登山ガイドマップ作成のための登山ルート調査」、第1・2次調査隊よりも時間をかけて登山道を歩き、今回調査のために準備したベースマップ(第2次調査隊がナマタン国立公園事務所から提供を受けた地形図とグーグルの衛星写真を重ね合わせた竹川賛助会員の労作です)を持参して、書き込み調査を行います。第2次調査隊の国立公園事務所との話し合いをフォローアップし、マップの早期完成に3部会の協力体制で取り組むことを確認しました。現地での移動スケジュール・旅行手続き等の説明(PIT八井)もテキパキと進められて遠征準備完了、話題は残留組メンバーとみんなと一緒に進める27年度後期の会員拡大活動や、帰国報告会の開催へと移り、短い時間でしたが中身の濃い「山木会」でした。

第3次調査隊は、11月16日11:45成田発全日空NH813で出発します。時間がなく壮行会ナシということになりましたが、NPO法人設立後の最初の調査隊になりますので、キチンと準備した帰国報告会を12月～1月中に開催することにしました。日程等決まり次第第3次調査隊・サポーターの皆さんにご案内しますので、ぜひご参加ください。

□登山ガイドブックの試作販売をきっかけに 村おこし活動へとステップアップ！

「登山ガイドマップ」作成については、「ふろたん通信」NO.4(2014.8.12)NO.5と続けてお伝えしてきましたが、NPO法人の収益事業として試作販売し、調査活動から村おこし活動へステップアップするきっかけにしたいと取り組んでいます。現地販売も想定して日本語版と英語版セットでの作成を進めてきましたが、第3次調査隊の結成までに時間がかかったことが幸いし(?)森田ご夫妻翻訳の英語版の作成もほぼ完了しています。今回の登山ルート調査を反映した「登山ガイドマップ」

2015年11月8日 ミャンマー総選挙

みすずライブラリー



アウンサンスーチー演説集

伊野憲治編訳

出発の1週間前の11月8日ミャンマーでは国の総選挙が行われ、アウンサンスーチー氏の率いる野党・国民民主連盟(NLD)が議席の8割を獲得し大勝、政権移譲を拒む何らかの世情不安があるのではとの不安を抱きながらの出発であったが、現地入りしてそれは全くの取り越し苦勞であったことがわかった。

誰もが民主化開放に向けた勝利を静かに受け止め、発展を信じているようで、この国の活力に未来を感じた。(第3次隊帰国レポート「OYAJI3匹ナマタンを目ざす」より)

みすず書房

アウンサンスーチー演説集

伊野憲治編訳



9784622050018



1910331028842

ISBN4-622-05001-3

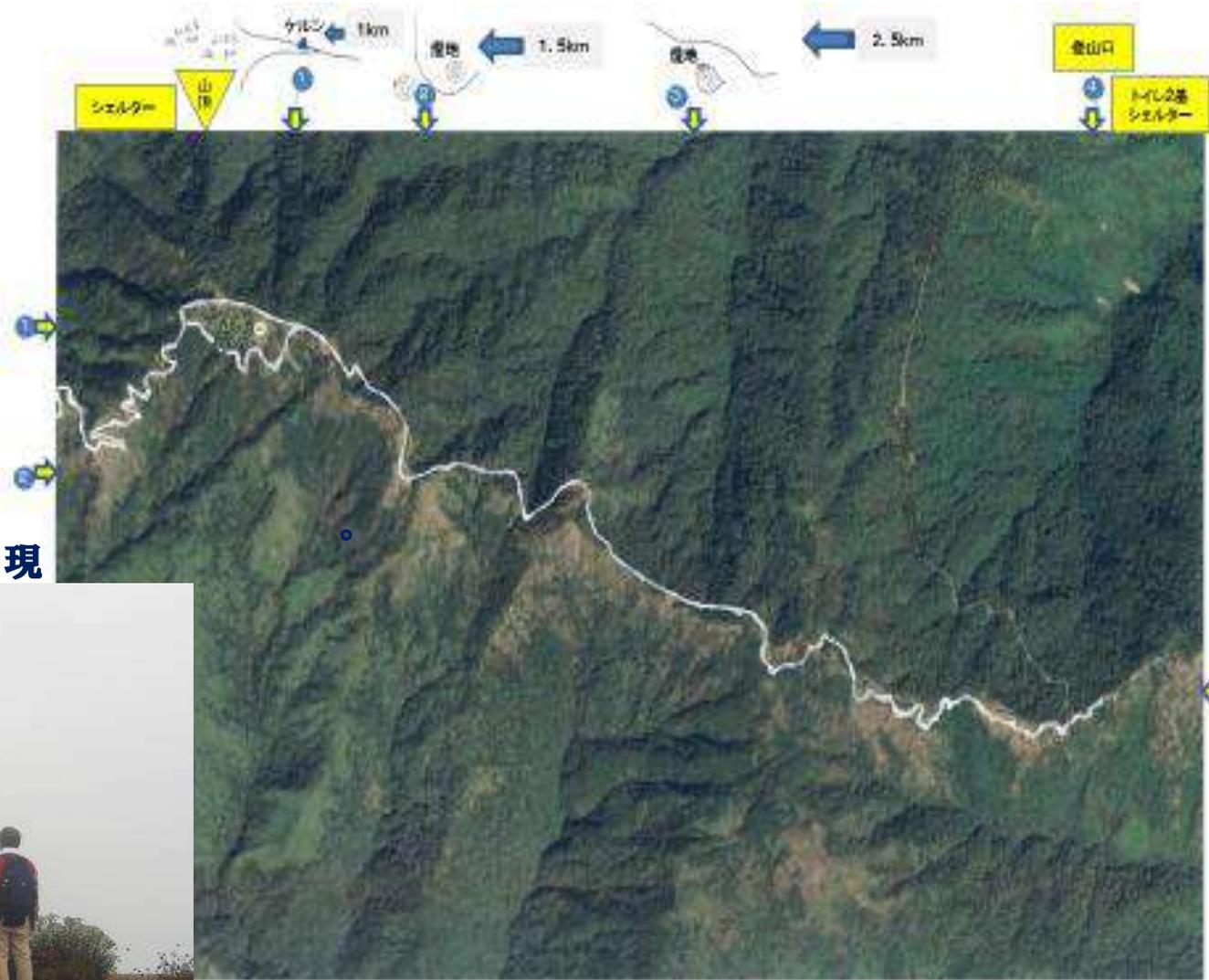
C0331 P2884E

定価 2884円
(本体 2800円)

アジアの女性として初めてノーベル平和賞を受賞したアウンサンスーチー、彼女は、ミャンマーの民衆に何を語り、訴えかけたのだろう。本書からは、その生の声が聞こえてくる。〈人は権力によって墮落するのではなく、恐れによって墮落する〉ここには、ガンディーの非暴力主義の思想を継ぎ、父アウンサンの道を実践する彼女の姿が鮮やかに映されている。そして彼女は、ミャンマーの民衆とともに一つの夢を抱く。〈誠実さ(ティッサータヤ)をもって、全ての人々が行動すれば、私たちの国は繁栄するのです。国が繁栄すれば、後世の人々は、尊敬をもって、世界の中心に位置することができるよう〉。

みすずライブラリー

2015年11月16～23日 第3次隊はトレッキングルートと自然植生の調査隊



三角点ピークには大仏様が出現
(ブッダピーク)



衛星携帯電話と万歩計を使って距離と時間を調査



ガイドのチョーさんとチン族の娘さん達



帰国報告会(2016.1.20)での3次隊メンバー

2015年12月13日 第4回「ふろたんインタビュー」

「植物図鑑で森守れ」

ナマタン国立公園の有用植物資源調査

2015年7月2日付「東京新聞(夕刊)」

2006年9月から2009年6月の3か年のJICA支援の草の根技術協力でミャンマーのナマタン国立公園の有用植物調査に取り組まれた、「アースウオッチ・ジャパン」の安田重雄さんと「牧野植物園」の藤川和美さん。

2013年3月の第1次調査隊がピクトリア山登山口で安田さんに偶然お会いし、帰国後に戴いた「調査報告書」は、今でもふろたん工房が一番頼りにし大切にしている参考書です。

藤川さんは、ミャンマーの植物図鑑づくりに引き続き取り組んでいます。

「ヒマラヤ植物研究会」で藤川さんの講演を聞き、アースウオッチ・ジャパンの事務所へ移動してのインタビューでした。



2015年12月13日(日)

時間: 13:15 - 17:00
場所: 東京大学本郷キャンパス 理学部2号館講堂

ヒマラヤの植物研究 この30年 これからの30年

ヒマラヤ植物研究会
創立30周年記念シンポジウム

13:15-13:20 イントロダクション
東京大学のヒマラヤ植物研究
大澤秀幸 (東京大学理学部)

13:20-13:40 The Society of Himalayan Botany and Himalayan Plants
Keisab Koh Shibahara (オハム・植物資源局)

13:40-14:30 ヒマラヤのキタキトウヒレン属の植物多様性
～私がヒマラヤから学んだこと～
藤川和美 (高知県立 牧野植物園)

14:50-15:15 Hengduan Mountains - Hotspot of Biodiversity
David E. Boufford (アメリカ・ハーバード大学)

15:15-15:40 ヒマラヤ産シャクナゲ属における集団の分化と木材構造
佐藤健一 (森林総合研究所)

15:40-16:05 ヒマラヤのセーター植物 *Sonchus latibotanicus*
(キク科) の系統地理
中野真希 (京都大学農学 牧野園本館)

16:05-16:20 水牛はじく花びら
藤子田裕孝 (東京大学大学院 理学系研究科)

16:25-17:00 Diversity and Endemism of Plants
in Bhutan (Günther Yaccouza
グレートヒマラヤ植物学センター)

主催: ヒマラヤ植物研究会
お問い合わせ先
〒113-0033 東京大学理学部2号館115号
東京大学植物学研究所 115号
藤川 美
Tel: 03-5447-2000
E-mail: k.fukukawa@u-tokyo.ac.jp



藤川さんと安田さん

2016年4月5日 平成28年度通常総会開催



総会では新年度の活動計画として

(1) 登山道整備活動への参加や
森の道づくり団体とのネット交流など、
目的を共有できる団体との協力・連携体制を
進化させること

(2) 日緬交流型のスタディツアーを企画し、
トレッキングマップの作成・発行に取り組むこと

が話し合われました。

ふろたん通信



2016年4月21日 広報センター No. 14

総会の報告を掲載した
第14号以降の「ふろたん通信」では、
目的を共有して今迄連携・協力してきた
団体の活動・行事についても、
色々と紹介しています

MT.VICTORIA PROJECT

特集 H28 年度 NPO 総会の報告 (4/5 千代田区有楽町ビルにて開催)

・H28年度の活動計画と予算である事業計画と新役員等が全員一致で承認決定されました。
出席者：正会員 13名 (うち委任状 4名)

■ H28 年度 NPO 総会の報告

・4月5日午後4時に千代田区有楽町ビルにて、H28年度総会が開催されました。
正会員 13名のうち出席 9名と委任状 4名でH27年度活動・決算とH27年度計画(活動計画と予算)
は全員一致で承認されました。また新役員選任(新任・交代)が全員一致で承認されました。

○ H28 年度の重点目標

今まで取り組んできた目的を共有できる団体との協力・連携ネットワークづくりをさらに進化させる。
I. 辺境での地での持続的な遠征・活動体制の確立を図るとともに
II. 国内活動も積極的に企画して引き続き賛助会員(個人・団体)の拡大に取り組み
III. 村おこしを目指した本格的な取り組み(収益事業)を開始する。

○H28 年度の主な活動計画

時期	事業名	活動内容	備考
上期～	森の道づくり	国内の森の道づくり団体とのネット交流	準備中
7/2	御嶽山復旧活動	登山道整備/木曾ユネスコ協会行事に参加	次号で案内
11月	スタディツアー	ミャンマー交流型トレッキングツアー	企画中
通年	国内の交流活動	サポーターとの交流イベントの企画推進	企画中
	地域産業育成	村おこし活動の企画提案	企画中
	収益事業活動	トレッキングマップの作成・発行	作成中
	図書の販売	活動図書(読本)の販売	販売中

○役員を選任

・新役員 新理事/宮本保宏(渉外担当)、朝倉正浩(事務局長)、高田睦夫(事務局次長)
新監事/濱崎良治 (濱崎・宮本両氏は任期途中退任→交代)

木曾ユネスコ協会
ミンガラバー・ユネスコクラブ
アースウォッチ・ジャパン
ピース・イン・ツアー
まちナビ倶楽部
びるまの竖琴 etc.

これからも、
森の道づくりに取り組んでいる
国内の多くの団体と交流し、
その活動について紹介していきます

2016年5月19日 第5回 「ふろタンインタビュー」

「百名山登山にも色々なシナリオがある！」
十勝会館前の小山のある遊び場
役者人生と単独行の山

毎日新聞夕刊の「目標は百名山踏破、演技に通じる感動」という記事で、山登りを始めたのは52歳を過ぎてからと話されていた小野寺昭さん、その二年後に書かれた本「ぼくの山登りいつも雨」を手にしながら「百名山談議」を伺いました。

ふろタン工房が製作中の「ストーリーマップ」では、「日本百名山」を目指してその数が増えるのを楽しみながら登っている山好きの人たちが、日本には数多くいることを紹介しています。



小野寺昭さん

